



表書院 西側面

名古屋城に行って来ました。本丸御殿の復元工事中に見学に行って以来、丁度12年ぶりでした。名古屋城は昭和5年に城郭として国宝に指定されていましたが、昭和20年の空襲で天守閣と本丸御殿も共に焼失していました。昭和34年に再建されたRC造の天守閣は耐震性不足で現在閉館中ですが、本丸御殿を特別公開日に当たった湯殿書院・黒木書院も含めて見る事ができました。本丸御殿は、家康の命により1615（慶長20）年に建てられ、1634（寛永11）年に家光の上洛に合わせて上洛殿と湯殿書院・黒木書院が増築され、総面積3,100㎡、高さ約12.7m、部屋数30以上、黒木書院以外は総檜造りの書院造建造物です。2009（平成21）年復元工事開始、江戸時代の文献、昭和戦前の古写真や実測図を参照して旧来の工法や材料を採用して、2018（平成30）年6月に完成公開されています。上御膳所と下御膳所、それに湯殿以外は廊下からの見学、柱・壁や建具等に触ることは禁止、鉛筆以外ボールペン類の使用や飲食も禁止されています。ストロボを使わなければ写真撮影は自由で、リュックサック等は前に掛け、大きな荷物は入口で預かってもらえます。土曜日の午前中でしたが、それ程待つことなく入場できました。

**玄関** 対面待ちの殿舎で、一之間18畳、二之間28畳。一之間は床の間・違い棚付で、一之間・二之間とも4周の障壁画は竹林と虎と豹（当時虎の雌とされていたとの説もある）で、訪問者を威圧する狙いと言われています（京都二条城にも同様の部屋がある）。

**表書院** 正式な謁見（対面儀礼）用の間で、本丸御殿で最大の建物です。上段之間15畳、一之間24畳半、二之間24畳半、三之間39畳、納戸之間24畳。上段の間は徳川義直が着座した部屋で、床の間・違い棚・付書院・帳台構え付です。

**対面所** 身内や家臣との私的な対面や宴席用の間です。上段之間18畳、次之間18畳、納戸一之間24畳、納戸二之間24畳。上段之間に京都と次之間に和歌山の四季の風物や名所の「風俗図」が、障壁画として描かれています。

**上洛殿** 上段之間15畳、一之間18畳、二之間22畳、三之間



車寄 正規来客の入口 最も太い柱が使われている



玄関 二之間 虎と豹の障壁画

21 畳、松之間 20 畳、納戸之間 10 畳。襖絵・天井板絵、彫刻欄間、飾金具等、豪華絢爛で、障壁画「帝鑑図」「雪中梅竹鳥図」は、狩野探幽作とのこと。



表書院 手前が一之間、奥が上段之間



表書院 三之間



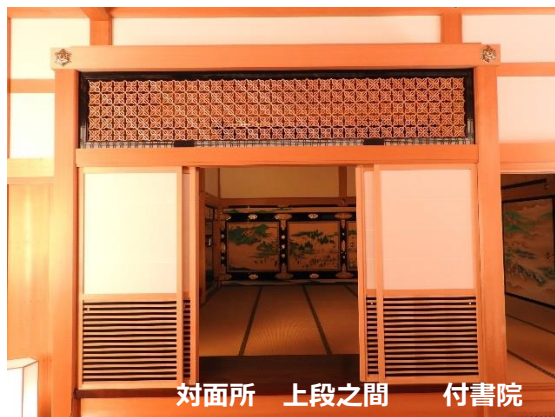
廊下床板 乾燥収縮で外光が



表書院 上段之間 左に違い棚、正面が帳台構え



表書院



対面所 上段之間 付書院



対面所 上段之間 帳台構え 風俗画「賀茂競馬」



上洛殿 一之間、奥が上段之間



上洛殿 二之間



上洛殿 三之間



廊下欄間も豪華な上洛殿



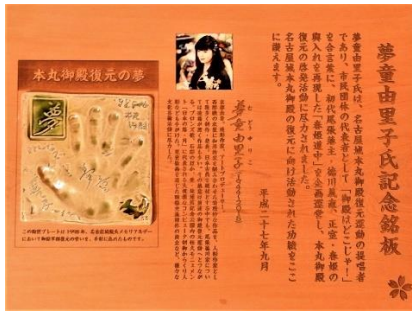
上洛殿 上段之間



上洛殿 右奥に天守閣



下御膳所（配膳や温め直し）



中央瓦屋根平屋が上台所（将軍専用調理場）

**湯殿書院と黒木書院** 特別公開（11月12～20日）されていた将軍の私的空間です。見学入口は別のところに設けられ、ガイド付きで15名ずつの入替制になっていたのので、こちらは入場まで結構待ちました。湯殿書院は将軍専用の風呂場（サウナ式蒸し風呂）です。上段之間6畳、一之間10畳、二之間10畳。黒木書院は松材が用いられてその色から黒木書院と呼ばれたようです。清須城内の家康の宿舎を移築したものだったともいわれています。



湯殿書院

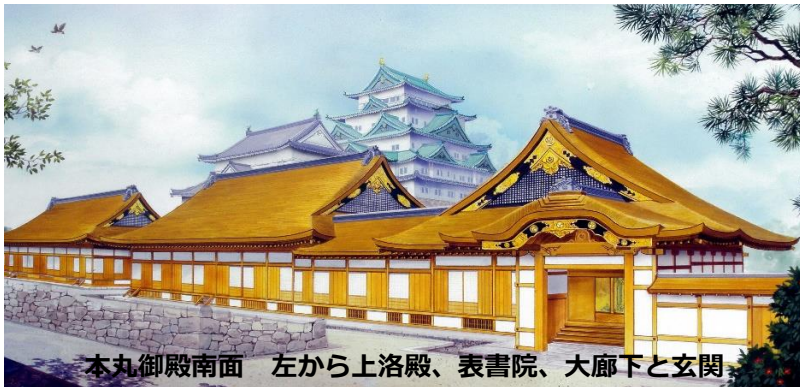


湯殿 風呂屋形から蒸気が出る

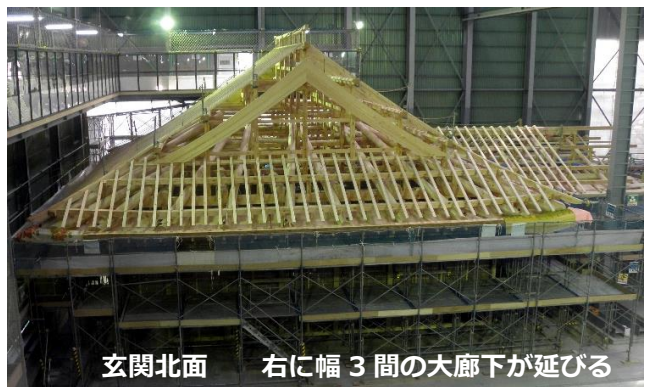


黒木書院

前回本丸御殿に行ったのは名古屋開府400年に当たり復元過程の公開が始まった2010年で、大きな覆いの素屋根内で玄関の軸組が生まれ、屋根垂木まで取り付けられた状態でした。まだ野地板もなく、小屋組みも含めて良材の太い柱・梁等をはっきりと確認することができました。これから組まれる墨付け・刻み済の材や、1本1本材面の節等がチェックされ墨付け前の220mm角で長さ6.5mの檜の柱材等も見られました。4面無節の柱材が必要などころもあり、集材にも大変な苦勞があると伺いました。完成済の今回は既に天井が張られているので小屋組みは見えなくなっていますが、上台所の北端にあるミュージアムショップ（別入口）は天井がないので、丸太梁やその上の小屋組みを見ることができます。



本丸御殿南面 左から上洛殿、表書院、大廊下と玄関



玄関北面 右に幅3間の大廊下が延びる





ミュージアムショップで小屋組みが見られる

西の丸御蔵城宝館は、外観は江戸時代にこの場所にあった米蔵を再現したのもで、展示室、収蔵施設と歴史情報ルームからなっています。ここの館内も写真撮影は自由でした。近くに「名古屋城のカヤ」があります。推定樹齢 600 年以上（名古屋城築城以前から）で、1932（昭和 7）年に国の天然記念物に指定され、その当時樹高 18m、枝張りには東北方向約 6.37m、北方約 19m、西方約 14m、南方約 11.63mあったとのこと。空襲で半焼したが回復し、現在は高さ 16m、幹回り 8mで、名古屋市内唯一の国指定天然記念物とのこと。



西の丸御蔵城宝館

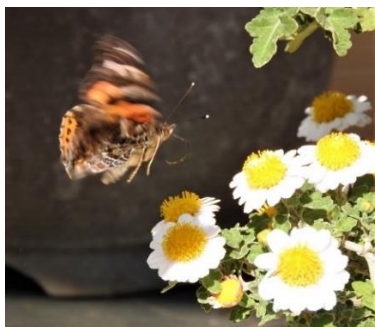
名古屋城秋まつりのイベントとして、菊花大会（10月23日～11月23日）も開催されていました。この丸広場ではこの日、ステージイベントとして印場東軍流「棒の手」が披露されていました。既に終わっていましたが、重要文化財の西南隅櫓・東南隅櫓の特別公開（10月29日～11月6日）もあったようです。



国指定天然記念物 名古屋城のカヤ



菊花大会



印場東軍流 棒の手



重要文化財 西南隅櫓と東南隅櫓

< グーグル地図参照 >

本丸御殿

<https://www.google.com/maps/@35.1848276,136.9001399,19.65z>

名古屋城のカヤ

<https://www.google.com/maps/@35.1840457,136.8976162,20.46z>

上の URL は、下の「PDF はこちら」に入り、アンダーラインをクリックしてください。

(2022.12.01)

(写真撮影 2010.11.12、2022.11.12)